



誰にでも未来を創る能力(ちから)がある

多賀城高校に災害科学科が誕生します

平成28年4月、県内で初めて、全国で2例目の防災系専門学科「災害科学科」が多賀城高校に誕生します。東日本大震災から学んだ教訓を将来にわたり語り継ぎ、今後、国内外で発生する災害から一人でも多くの命と暮らしを守っていくための人づくりを目指します。

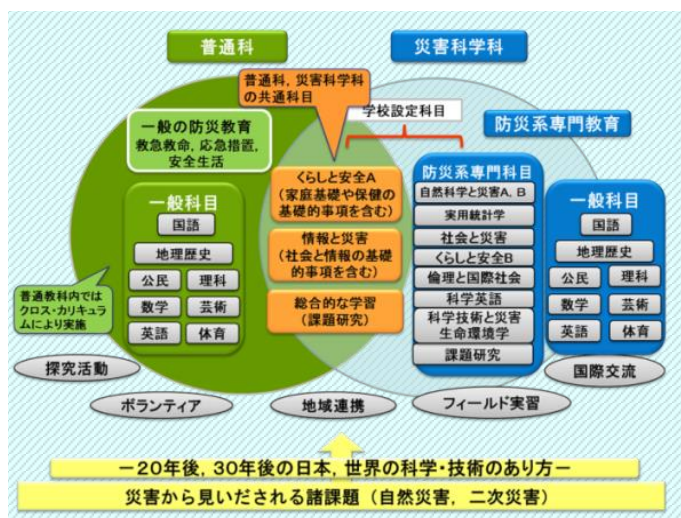
「命と暮らしを守る」未来の創造者を育てます

「災害科学科」における学習内容

災害科学科では、大学や研究機関と協力し、安全や防災の内容を重視した「暮らしと安全」、情報活用を中心とした「情報と災害」、フィールドワークや実験・実習を重視した「自然科学と災害」、地理と災害の関係などを重視した「社会と災害」など特色ある学習を行います。

卒業後の進路

大学や上級学校への進学を目標とし、特に、自然環境や災害への備えを研究する学科や医療・看護、都市計画や社会工学、心理学などを研究する学科へつながる学習を行い、将来は研究者や技術者、各分野のスペシャリストを目指します。



津波波高標識の設置

- ・通学防災マップの浸水地域(通学圏)の津波波高を調査
- ・地域住民への活動趣旨の説明と理解協力
- ・津波被害の伝承



●津波波高標識の設置活動

開設に向けた取組

災害科学科の開設に向け、これまで県内外の大学や研究機関と連携した講義や実習、津波波高の標識設置、防災ワークショップや被災地ガイドボランティアなど、被災経験をもとにした様々な活動を通して、自身の防災意識を高めるとともに、科学的視点から防災・減災を考え、自らが他者と交流する防災教育を行ってきました。

このような防災・減災の教育活動の取組は、今年3月に仙台市で開催された国連防災世界会議の「世界防災Jr.会議」において発表し、最高賞の「金賞」を獲得しました。



●通学防災マップ作成



●「世界防災Jr.会議」 「金賞」受賞



『こころの復興フォーラム』 ～ 子どもたちの未来のために ～ を開催

8月11日（火）、東京エレクトロンホール宮城を会場に「こころの復興フォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、県保健福祉部次長兼子ども総合センター所長本間博彰氏の「大震災から5年目の子どもたち」と題した基調講演、そして、「子どもたちの未来のために」～こころの復興をめざして 学校の現状から～をテーマに、5名によるパネルディスカッションが行われました。



800人を超える県内の公立・私立の小・中・高・支援学校の管理職など教育関係者が参加し、東日本大震災から4年が経過した現在の児童・生徒や教職員の状況、学校現場をあずかる管理職としての対応方策などについて、情報と認識を共有する貴重な機会となりました。



●基調講演をされた本間先生

キッズデザイン賞復興支援部門奨励賞を受賞 副読本「未来への絆」

8月3日、県で作成した防災教育副読本「未来への絆」が、東京のキッズデザイン協議会から復興デザイン部門奨励賞を受賞しました。

副読本は、小学校における防災教育の教材として、単なる知識の習得だけではなく、体験活動の視点を取り入れ、非常時に命を守る力を身に付けることができるよう工夫しています。また、震災を体験した児童生徒の作文や地域の方の記録なども記載されています。

これまで小学校編を発行し、幼稚園編・中学校編・高等学校編は、来年3月の発行を予定しています。



みやぎ防災教育推進協力校の取組紹介

地域の教材を活かした防災教育の実践 栗原市立栗駒小学校

栗原市立栗駒小学校では、栗駒山麓ジオパーク推進協議会と連携した防災教育を進めています。

栗原市は、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震で、栗駒山麓が大規模な崩壊をするなど、甚大な被害があった地域です。

10月30日に実施された6年生のジオパーク学習では、栗駒山麓の地形・地質の特徴や岩手・宮城内陸地震のことについて、現地を見学しながら「ジオガイド」から説明を受けました。その後、崩落現場が見える場所で、地すべりが起こる仕組みの実験や陥没カルデラ実験などの体験学習を行いました。

栗駒小学校では、今後も、協議会と連携し、総合的な学習の時間や教科の学習に関連付けた防災教育に取り組んでいきます。



●シミュレータ「ユレオ」を活用した地すべりのメカニズムについての学習



無断転用禁止

宮城県教育庁教職員課・スポーツ健康課

〒980-8423 仙台市青葉区本町3-8-1
TEL 022-211-3639 FAX 022-211-3698
TEL 022-211-3662 FAX 022-211-3796

●このリーフレットの制作は平成27年11月です。